

身近な風景から考える防災とまちづくり

―「バーチャル巡検」・「プチ巡検」と主題図作成による地域の課題の発見―

愛知県立津島東高等学校

教諭 羽土 文彦

1 はじめに

人々はそれぞれいずれかの地域において生活を営んでおり、地域を取り巻く自然環境や社会環境の中で、その特徴を利用した文化や産業をはぐくみ、またその制約を克服しようとしてきた。しかし、社会の高度情報化・多様化が進む中、いつでも、どこでも、だれでも、それぞれが望むような生活行動が可能となりつつあり、日常生活では地域を取り巻く環境の影響をかつてほどに感じられなくなっている。ゆえに、多くの人々にとって、地域に根ざした生活感覚は希薄なものとなり、自分が暮らす地域の身近な風景は、単なる「背景」となっているのではないだろうか。そして、突如として発生する大地震や集中豪雨による水害などの自然災害により、「背景」にかすんでいた地域の特色を痛感するのではないだろうか。

経済産業省は、『シティズンシップ教育宣言』において、シティズンシップ教育を「市民一人一人が、社会の一員として、地域や社会での課題を見付け、その解決やサービス提供に関する企画・検討、決定、実施、評価の過程にかかわることによって、急速に変革する社会の中でも、自分を守ると同時に他者との適切な関係を築き、職に就いて豊かな生活を送り、個性を發揮し、自己実現を行い、さらによりよい社会づくりにかかわるために必要な能力を身に付ける」ための教育と定義している。一方、地理教育は、地域を形成してきた人間活動をその舞台となる地形などの自然環境との関係を踏まえて考察することを、「地理的な見方や考え方」の一つとして重視している。両者は共に地域を対象としており、多角的に地域の有り様を考察させる地理教育は、地域をよりよくするためのシティズンシップをはぐくむ上で重要な役割を果たすことが期待できる。そこで本研究は、地理教育の視点に立ったシティズンシップ教育を実施し、身近な風景から地域の特色を読み解く手法を身に付けさせ、他者との協力の下にその手法を用いて防災とまちづくりについて考えさせることで、地域の課題に主体的にかかわる姿勢、すなわちシティズンシップをはぐくみたい。

平成 21 年 3 月に公示された新たな学習指導要領において、地理 A については、単元「自然環境と防災」が新たに設置された。この単元は、「我が国の自然環境の特色と自然災害とのかかわりについて理解させるとともに、国内にみられる自然災害の事例を取り上げ、地域性を踏まえた対応が大切であることなどについて考察させる」ことを目指し、その取扱いについては、「地形図やハザードマップなどの主題図の読図など、日常生活と結び付いた地理的技能を身に付けさせるとともに、防災意識を高めるよう工夫すること」が求められている。つまり、身近な風景から防災について考えさせることは、新たな学習指導要領の目指すところである。

2 研究のねらい

本研究では、巡検（「バーチャル巡検」と「プチ巡検」）と地形図を利用した読図や主題図作成によって地域の特色を理解する手法を身に付けるとともに、それが防災やまちづくりに重要な役割を果たすことを理解させ、地域の課題に主体的にかかわる意識を高めさせることをねらいとした。同時に、

グループ学習を通して他者と共に考える姿勢をはぐくむことも目指した。

このねらいは、シティズンシップを発揮する上で求められる「意識」・「知識」・「スキル」の育成に直結するものと考えている。

3 単元の目標・評価計画

(1) 単元の目標

単元の目標は、シティズンシップ教育の視点に立ち、身近な風景から地域の特色を読み解く手法を身に付けさせ、他者との協力のもとにその手法を用いて防災とまちづくりについて考えさせることで、地域の課題に主体的にかかわる姿勢をはぐくむことである。

このための教材や指導法の工夫として、シティズンシップを発揮する上で求められる「社会への参画に関する意識」をはぐくむために、身近な風景を題材とし、地域の問題を自らの問題としてとらえることができるように配慮する。3時間構成のうち、1時間目には、金山駅・熱田神宮・名古屋城など生徒の多くが行ったことがあると思われる場所に関する映像や画像を用いた「バーチャル巡検」を、2時間目には、学校の敷地の端を歩きながら外の風景を観察する「プチ巡検」を行う。

また、「公的・社会的分野での活動に必要な知識」や「情報や知識を効果的に収集し、正しく理解・判断するためのスキル」をはぐくむために、巡検以外にも、国土地理院発行の2万5千分の1地形図をもとにした主題図作成作業（1時間目：段彩図，2時間目：土地利用図，3時間目：ハザードマップ）を行う。

さらに、「他者と共に社会の中で、自分の意見を表明し、他人の意見を聞き意思決定し、実行するためのスキル」の向上を目指すために、グループでの作図や意思決定作業を取り入れる。

(2) 評価計画

評価については、授業終了時に回収するワークシートにより、表1に示す評価規準に基づいて行う。

【表1 評価計画】

評価の場面	能力	評価の観点	評価規準	評価方法
評価1	【スキル】 情報や知識を効果的に収集し、正しく理解・判断するためのスキル	資料活用の技能・表現	・作成した段彩図を基に地形の様子を想像し、模式図を描くことができる。	ワークシート1
評価2	【スキル】 情報や知識を効果的に収集し、正しく理解・判断するためのスキル 他者と共に社会の中で、自分の意見を表明し、他人の意見を聞き意思決定し、実行するためのスキル	資料活用の技能・表現	・地形図から地図記号を適切に読み取って着色し、グループで協力して土地利用図を作成することができる。	ワークシート3

評価3	【知識】 公的・社会的分野での活動に必要な知識	知識・理解	・授業内容に基づき自然災害を予測することの重要性をおおむね理解できる。	ワークシート7の1
評価4	【スキル】 情報や知識を効果的に収集し、正しく理解・判断するためのスキル	思考・判断	・立地条件から適切に判断し、ハザードマップを作成することができる。	ワークシート8
評価5	【意識】 社会への参画に関する意識	関心・意欲・態度	・地域の課題にかかわる必要性を感じている。	ワークシート7の2

4 学習指導

(1) 第1時限 「^{やま}金山^{あつた}ほど^{知る}熱田！^{名古屋}城う名古屋のダイチな秘密」

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の場面
導入 5分	「金山駅の謎」	・金山総合駅付近の車窓と駅構内を撮影した映像・画像（資料3）を見て「金山駅の謎」について考える。	・映像・画像については、詳細には触れず、生徒の疑問をかき立てるような補足説明をする。	
展 開	段彩図の製作 「ここにあったか！熱田神宮」 「城の位置を知ろう」	・ワークシート1（資料1）に印刷された地形図（「名古屋北部」及び「名古屋南部」）で、等高線を読み、標高ごとに色分けして段彩図を作成する。 ・作成した段彩図（資料2）で熱田神宮を確認し、どのような地形に立地しているのかを考察する。 ・作成した段彩図（資料2）で名古屋城を確認し、どのような地形に立地しているのかを考察しワークシート1（資料1）に模式図を描く。	・0m未満を紺色、0m以上5m未満を青色、5m以上10m未満を緑色、10m以上15m未満を黄色、15m以上を茶色で塗るよう指示する。 ・作業の進み具合を確認して、模範例（資料2）をスクリーンに提示する。 ・段彩図を読み取って地形の様子を想像するよう指示する。 ・熱田神宮付近を撮影した映像（資料3）をスクリーンに提示する。 ・段彩図を読み取って地形の様子を想像するよう指示する。 ・模式図は簡略に描けばよいことを指示し、作業の進み具合を見ながら、名古屋城付近を撮影した映	評価1

40分	「金山駅の謎 解説編」	<ul style="list-style-type: none"> 作成した段彩図（資料2）で金山駅を確認し、「金山駅の謎」について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 像及び画像（資料3）をスクリーンに提示する。 段彩図を読み取って地形の様子を想像するよう指示する。 金山駅付近を撮影した映像及び画像（資料3）をスクリーンに提示する。 	
まとめ 5分	「坂のある栄、 田だったタワーズ」	<ul style="list-style-type: none"> 栄付近・名古屋駅付近の映像や画像（資料3）を見て、身近な景観に地形を見いだすことができることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時を振り返りながら、簡潔な説明にとどめる。 	

(2) 第2・3時限 「意外なところに災害のもと」

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の場面
導入 30分	「プチ巡検」で 学校再発見	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート2（資料4）を用いて、学校の敷地の端の数箇所で見える風景をスケッチする。 	<ul style="list-style-type: none"> スケッチについては、簡潔に描くようにのみ指示し、後の気付きを促すためにも地形に注目するなどの指示はしない。 	
展 開	「とちりょうのない土地利用図」の作成 「謎の石垣」	<ul style="list-style-type: none"> 学校がどのようなところに立地しているかを調べワークシート3（資料5）に記入する。 グループごとに、ワークシート4（資料6） ・ワークシート5（資料7）に印刷された学校周辺の地形図（現在のもの及び昭和22年のもの）を裁断して分割し、それぞれに色を塗って土地利用図を作成する。 校地の端の「石垣」の存在を指摘し、なぜそこに存在するのかを、「プチ巡検」でのスケッチと作成した新旧の土地利用図とを手掛かりに考えて、ワークシート6（資料10）にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 田を青色、桑畑を黄色、畑を緑色で塗るよう指示し、その他の土地利用については作業の進行状況を確認しながら必要があれば指示する。 次の工程として、作成した土地利用図を基に地形の分析を行うことを知らせる。 「石垣」を撮影した画像（資料13）をスクリーンに提示した後、新旧土地利用図（資料13）も合わせて提示し、作業の不備や該当箇所の地図上の位置などを確認させた上で考察をさせる。 	評価2

65分	「学校の素顔」	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート3（資料5）を用いて、学校の両側は旧河道であり、土地が低くなっていることを理解した上で、起こりうる自然災害について考察しワークシート7（資料11）にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ内で意見交換を行い、考察を深化させた後、グループごとに発表を行わせる。 旧河道などの地形の説明は、土地利用図から判断できるとともに、景観や土地条件図などの資料によって裏付けられることにも触れる（資料13）。 	評価3
	「ハザードマップを作ろう」	<ul style="list-style-type: none"> 新旧土地利用図を比較しつつ、ワークシート8（資料12）を用いて学校周辺のハザードマップを作成する。 身近で公共的な施設が必ずしも自然災害に強い立地条件にはないことを理解し、よりよいまちづくりの在り方を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 起こりうる自然災害とその影響が及びやすいところをグループで考えて地形図に図示させ、ハザードマップを作成させる。 災害時には避難所ともなる公共的な施設が適切な立地かどうか、適切でないならどこに配置するのがよいかを、地形との関係から考察させる。 現実には、様々な要因の影響を受けて災害が発生することを示唆する。 	評価4
まとめ5分	「意外なところに災害のもと」	<ul style="list-style-type: none"> 身近な地形に潜む自然災害の危険性や、防災やまちづくりについて考察し、ワークシート7（資料11）にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各自のワークシートへの記入を促すとともに、意見交換も行わせる。 	評価5

5 成果と課題

(1) 実践上の問題点

本研究中の学習指導案は、地理Aを開講していた前任校における授業実践を紹介したものである。昨今、県内の高等学校における地理教育の衰退は顕著であり、現任校と同様に地理科目（地理A・地理B）が教育課程から消滅した学校は少なくない。地域をよりよくするために重要な科目が失われていくことは、大変遺憾である。

(2) 成果と課題

授業での生徒の様子や雑感に加え、平成19年度末に行った授業に関するアンケートに対する回答のうち本研究に関するものを、特に「スキル」と「意識」の育成に焦点を当てて以下のようにまとめた。

ア シティズンシップを発揮するために必要な「スキル」に関して

段彩図・土地利用図などの主題図の作成については、原理や方法を理解すれば単純な作業が中心となるため、多くの生徒が作図を適切に行い、情報を効果的に収集して判断することができた。一方で、

スケッチや地形から考察する模式図については、絵を描くことに対する抵抗や技術的な問題から、描画はなされるものの、情報を効果的に収集した適切な図はあまり見られず、折に触れて指導しておくべきであったと感じた。また、土地利用図の作成では、グループでの共同作業を行わせたが、普通の授業でグループ活動に取り組む機会が少なかったこともあり、リーダーとして共同作業をまとめる生徒がある一方、自分の作業のみに終始する生徒も少なくなかった。

「バーチャル巡検」や「プチ巡検」については、ワークシートでの作業を通じて、多くの生徒は日頃見慣れた身近な風景の中に「隠れた地形」を発見し、地形と土地利用の関係を正しく理解することができた。しかしながら、起こりうる自然災害については、既習事項に関連付けて自ら見いだすことは難しく、指導によって理解することができたようだ。

イ シティズンシップを発揮するために必要な「意識」に関して

主題図の作成における作業の煩雑さに後ろ向きな反応を示す生徒が当初は散見されたが、作図はある種の達成感をともなうため、次第に多くの生徒が作業そのものに熱中するようになり、取組はおおむね良好であった（資料 14）。また、「プチ巡検」については、ポイントをあえて明示しなかったことによる目的意欲の低さに炎天下の暑さが加わって集中できない生徒も見られた。しかしながら、「プチ巡検」・「バーチャル巡検」のような巡検という活動は、ほとんどの生徒にとって初体験のものであり、通常と異なる授業形態に刺激され、大変興味をもって取り組むことができた（資料 15）。特に、「バーチャル巡検」は生徒にとって取り組みやすかったようで、画面から情報を読み取ろうと意欲的に取り組む姿が目立った。身近な風景から地形を読み取れることに関心をもち、「バーチャル巡検」ではなく実際に巡検を行ってみたいと考える生徒も少なくなかった（資料 16）。さらに、一部の生徒は、身近な地域への関心をより高め、自ら進んで風景を読み解こうとする意識をもつこともできた（資料 17）。

また、「家の前の道路が川になっていた（生徒談）」のを目の当たりにしたことがあるという生徒や、大雨の際に膝まで水につかって旧河道にあたる箇所を歩いた経験のある生徒などは、地形や防災を身近な課題としてとらえていた。

ウ 総括

前項ア及びイを総括すると、シティズンシップを発揮する上で求められる「社会への参画に関する意識」の啓発という点では今後の更なる実践と分析・考察が必要である。「公的・社会的分野での活動に必要な知識」や「情報や知識を効果的に収集し、正しく理解・判断するためのスキル」については、巡検や作業を通じて身に付けた生徒が多かった。また、共同作業を通じて、「他者と共に社会の中で、自分の意見を表明し、他人の意見を聞き意思決定し、実行するためのスキル」をはぐくむことを目指したが、グループ活動への取組には個人差が大きく、課題を残した。

エ 地理Aにおけるシティズンシップ教育の展望

本稿冒頭でも述べたように、地理Aでは、新たな学習指導要領の中に単元「自然環境と防災」が新設されたが、これは本実践が取り扱った内容そのものであり、「よりよい社会づくりに参加するために必要となる多様な能力」の育成を目指すシティズンシップ教育の理念を具現化しやすい単元である。この点から、地理Aにおいてシティズンシップ教育を導入する意義は十分にあると言えよう。

また、本実践で扱ったような身近な地域に潜む災害の要素は、多くの学校所在地域でも何かしらの形で存在しており、異なる対象地域での実践は十分可能であると考えられる。こうした汎用性のある題材を教材として用いることができる地理Aの授業は、シティズンシップ教育において大きな役割を果たすものと期待できる。

(3) 「意識」・「知識」・「スキル」の育成に関する検証方法について

先に述べた本実践の成果には、シティズンシップを発揮する上で求められる「意識」・「知識」・「スキル」の伸長に関して客観的に検証したとは言い切れない点がある。今後、同様な実践を行う際には、次のような検証方法を考慮する必要があると考える。

ア 「意識」・「知識」の育成に関して

「公的・社会的分野での活動に必要な知識」については、防災とまちづくりに関する記述から獲得の様子を測ることができるが、実践前にも記述させて比較すれば、知識の広がりにより明確となる。また、本実践が伸長させることを最も意図する「社会への参画に関する意識」の育成については、身近な地域と自分とのつながりや、地域が抱える課題などに対して、各生徒がどのようにとらえているかを、実践前と実践後に記述させることで、その成果を検証することができると思う。「政治への参画」、「社会に関与し貢献しようとする意識」、「環境との共生や持続的な発展を考える意識」を想起させる記述が増えていけば、「意識」は高まったと言えよう。

イ 「スキル」の育成に関して

本実践が高めることを意図している「情報や知識を効果的に収集し、正しく理解・判断するためのスキル」については、段彩図・スケッチ・模式図・土地利用図・ハザードマップの作成を行ったワークシートの完成度から検証することが可能である。また、対象地域を換えて同様の作図等を行うことができれば、両者の比較からスキルの精度の向上が明らかになると言えよう。また、「他者と共に社会の中で、自分の意見を表明し、他人の意見を聞き意思決定し、実行するためのスキル」についても、本実践と同様のグループでの作図や意思決定作業を再度行い、その都度、活動の状況をワークシートに記録させることで、「スキル」の向上が浮き彫りとなると思われる。

6 おわりに

平成 19 年度末、本研究の元となった授業を実践したしばらく後に、幾人かの生徒が「先生、金山駅に”巡検”に行ってきたよ」とうれしそうに話してくれたことを記憶している。生徒たちは、普段当たり前のものとして見過ごしていた生活の「背景」に、多少なりとも意味を感じ取ることができ、また、そのことに喜びを感じたようである。地域社会のつながりが希薄になったと言われて久しいが、生徒が感じた地域に対する小さな関心は、やがて自らが暮らす地域に正面から向き合うきっかけとなり、地域が抱える課題に主体的に取り組むことへとつながってゆくのではないだろうか。高校生が、地域に根ざした生活感覚を身に付け、積極的に社会参画を志す市民へと成長する過程において、シティズンシップ教育は重要な役割を果たすものと考えられる。そして、そのためにも、地域を学習対象とする地理教育の衰退を何としてもくい止めなければと痛切に感じている。

【参考文献】

経済産業省 『シティズンシップ教育宣言』 2006 年

文部科学省 『高等学校学習指導要領』 2009 年

井上征造・相沢善雄・戸井田克己 『新しい地理授業の進め方―見方・考え方を育てる』
1999 年 古今書院

星野朗・岩渕孝・大野新・小林汎・田代博編 『地理教育をつくる 50 のポイント』
2004 年 大月書店



地理Aワークシート 1

※B4サイズの生徒用資料をA4サイズに縮小

山地・平野の地形と人々の生活
…の発展

←国土地理院発行
1:25,000地形図
「名古屋北部」&「名古屋南部」
等高線を太く塗り、
標高の数値を加筆してある。

作業1 段彩図をつくろう！

等高線を読み取って、
5mごとに色分けしよう。

凡例

	15m以上
	10m以上 15m未満
	5m以上 10m未満
	0m以上 5m未満
	0m未満

※等高線は2.5m間隔で示してあるので、2.5mごとに色分けするほうがよい。

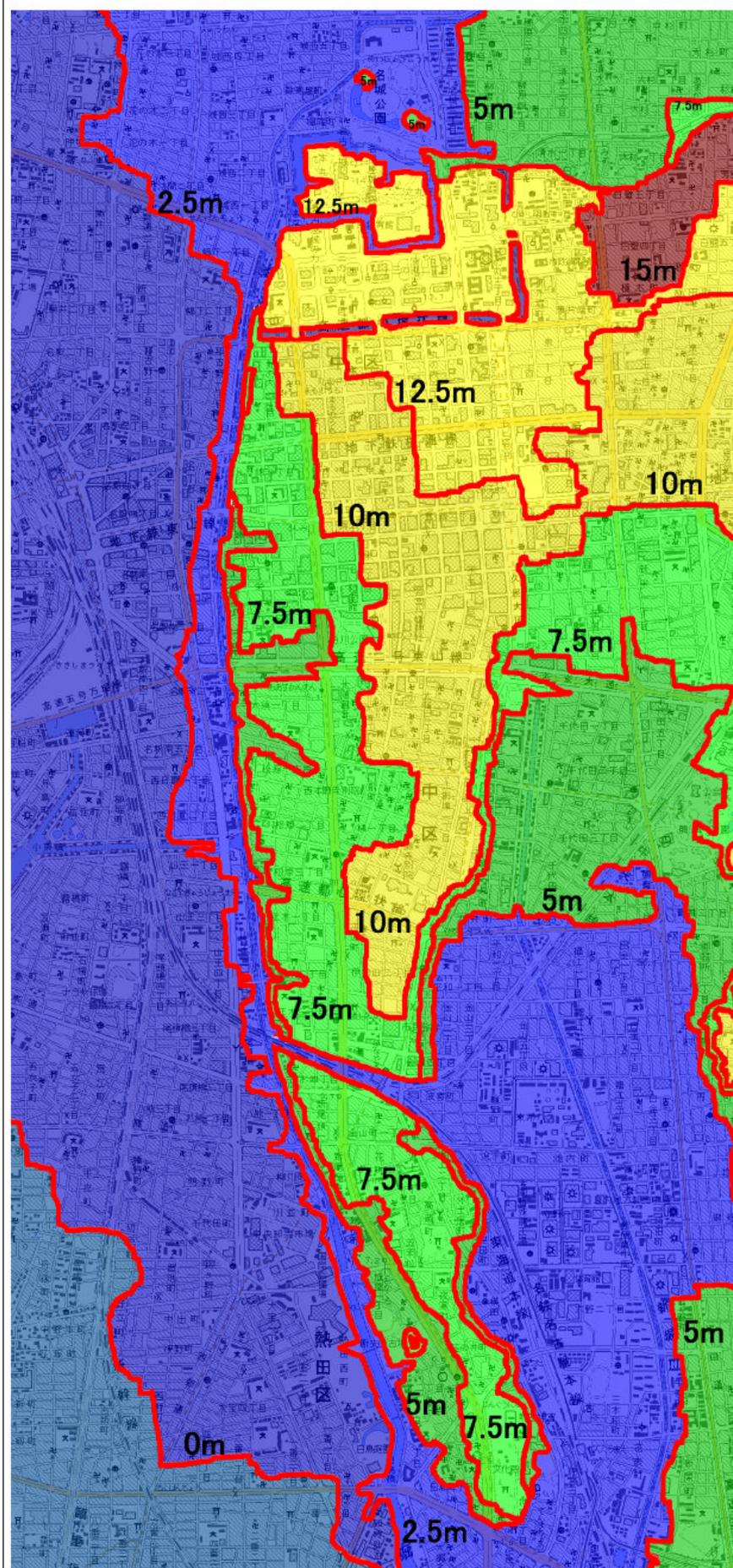
作業2 模式図を描こう！

指定の地点から見た景観を想像し
下の枠内に模式図を作成しよう。



組番 _____

氏名 _____



地理Aワークシート 1

※B4サイズの生徒用資料をA4サイズに縮小

山地・平野の地形と人々の生活
…の発展

←国土地理院発行
1:25,000地形図
「名古屋北部」&「名古屋南部」
等高線を太く塗り、
標高の数値を加筆してある。

作業1 段彩図をつくろう！

等高線を読み取って、
5mごとに色分けしよう。

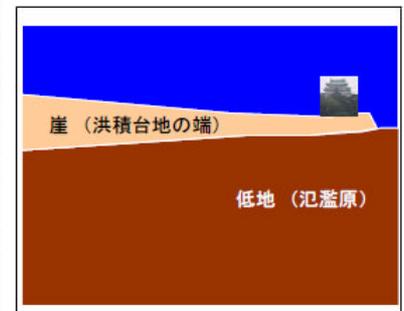
凡例	
	15m以上
	10m以上 15m未満
	5m以上 10m未満
	0m以上 5m未満
	0m未満

※等高線は2.5m間隔で示してあるので、2.5mごとに色分けするほうがよい。

※本資料の段彩図は提示用として2.5mごとに着色

作業2 模式図を描こう！

指定の地点から見た景観を想像し
下の枠内に模式図を作成しよう。



組番 _____
氏名 _____

山ほどあった！
知ろう名古屋の大事な秘密

「身近な風景から考える」地理資料

金山駅の謎



金山駅の謎



金山ほどあった！
知ろう名古屋の大事な秘密

「身近な風景から考える」地理資料

作業1 段彩図をつくろう！

- 等高線を読み取って、5mごとに色分けする
 - 15m以上 : 茶色 
 - 10m以上 15m未満 : 黄色 
 - 5m以上 10m未満 : 緑色 
 - 0m以上 5m未満 : 青色 
 - 0m未満 : 紺色 
- ※凡例の  にも着色しておく

金山ほど熱田！
知ろう名古屋の大事な秘密

「身近な風景から考える」地理資料

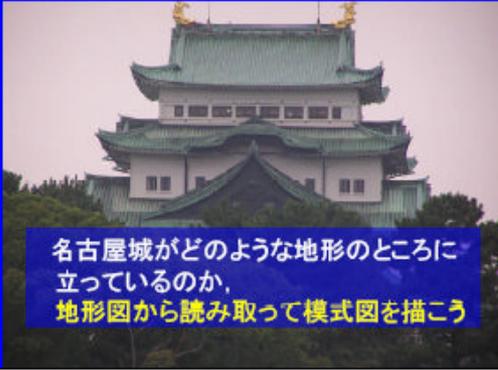
ここにあったか！熱田神宮



金山ほど熱田！
名古屋城う名古屋の大事な秘密

「身近な風景から考える」地理資料

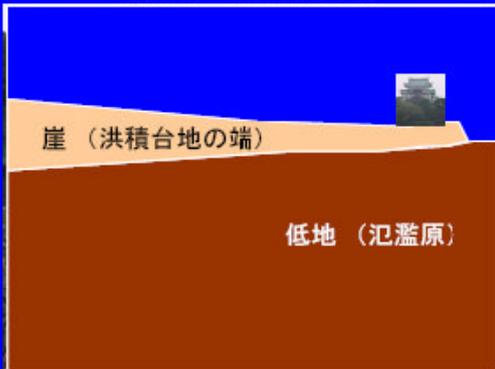
城の位置を知ろう



城の位置を知ろう



城の位置を知ろう



金山駅の謎 解説編



金山ほど熱田！
名古屋城の秘密

台地

「身近な風景から考える」地理資料

坂のある栄、田だったタワーズ



学校周辺で
「プチ巡検」！

Q

本校は
どのような所に
あるのだろうか？



→学校の敷地の端で
周囲の様子をスケッチし、
気付いたことをメモしよう。

※スケッチを行った地点A～Dを上の写真に書き込む。

A地点

B地点

気付いたこと

気付いたこと

C地点

D地点

気付いたこと

気付いたこと

学校周辺の地形を調べよう！

1 本校、今・昔

- ① 現在の地形図で、本校を探して☆を付ける。
- ② 古い地形図（昭和22年発行）で、同じ場所に何があるかを調べる。

新旧地形図から読み取ろう その1

- 現在、本校がある所には…

昭和22年当時は_____という地図記号で示された_____があった。

2 土地利用図の作成

まず、古い地形図を使って、

→次に、新しい地形図を使って、

① 田 を青色で塗る

④ 田 を青色で塗る

② 桑畑 を黄色で塗る

⑤ 桑畑 を黄色で塗る

③ 畑 を緑色で塗る

⑥ 畑 を緑色で塗る
(Vの記号を緑で塗ればよい)

(時間があれば…)

⑦ 建物 を赤色で塗る
(住宅など)

⑧ 建物 を赤色で塗る
(住宅など)

色を塗れたら、新旧それぞれの土地利用図を見比べてみる

新旧地形図から読み取ろう その2

- 現在、本校がある所の周りには…

昭和22年当時は_____が一面に広がっていたが、

現在はそのほとんどが_____や_____に変化している。

- 昭和22年当時に比べ、現在では_____が非常に増えている。

- ◎現在の本校の敷地の東西両側には…

昭和22年当時は_____が帯状に続いていた。

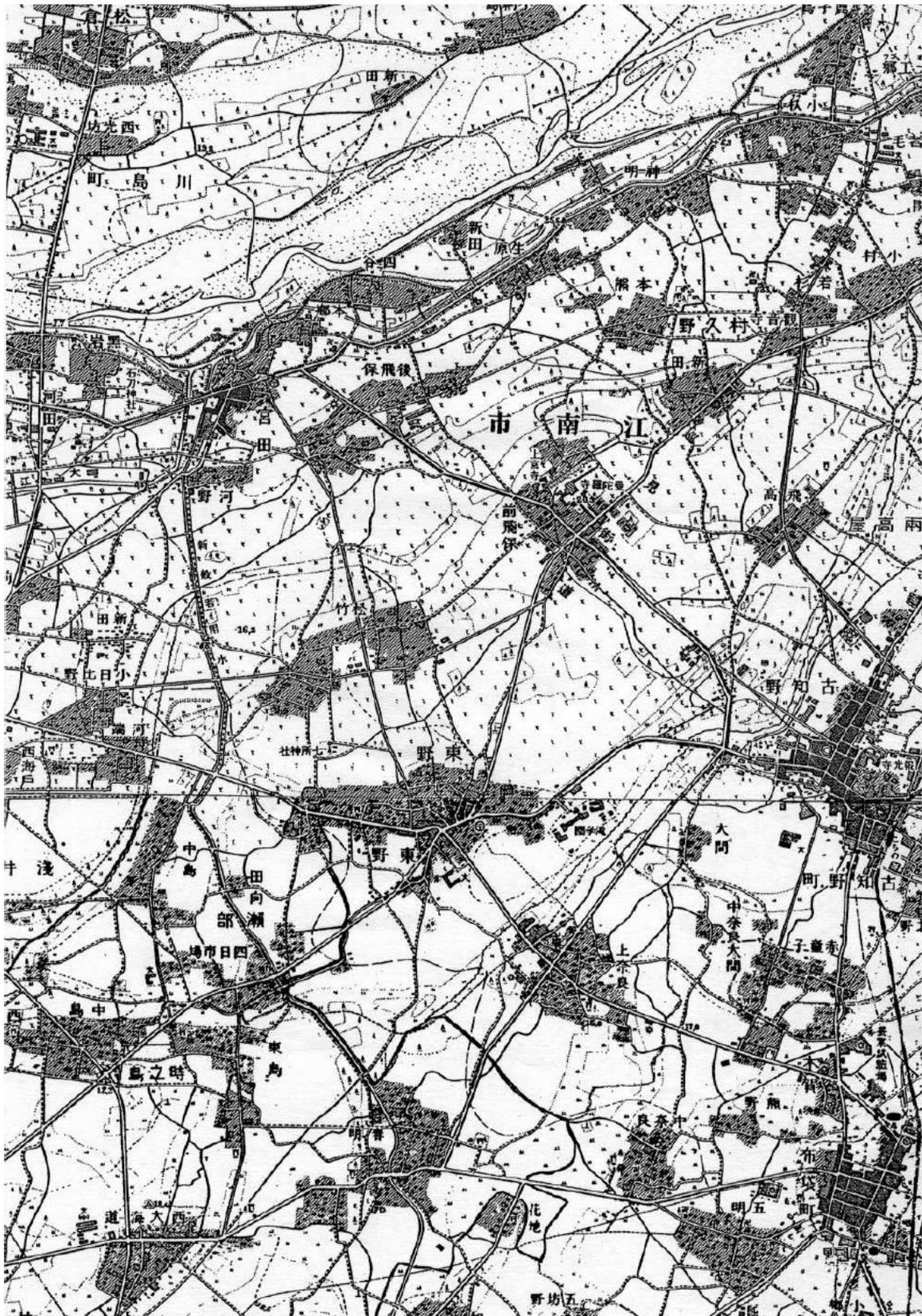
3 等高線の着色

古い地形図の標高20mの等高線を赤色でなぞる。

…「野知古」という地名の「野」の字の所を通っている実線が標高20mの線

新旧地形図から読み取ろう その3

- ◎本校の敷地の東西両側は、かつては小さな_____の地形だった。



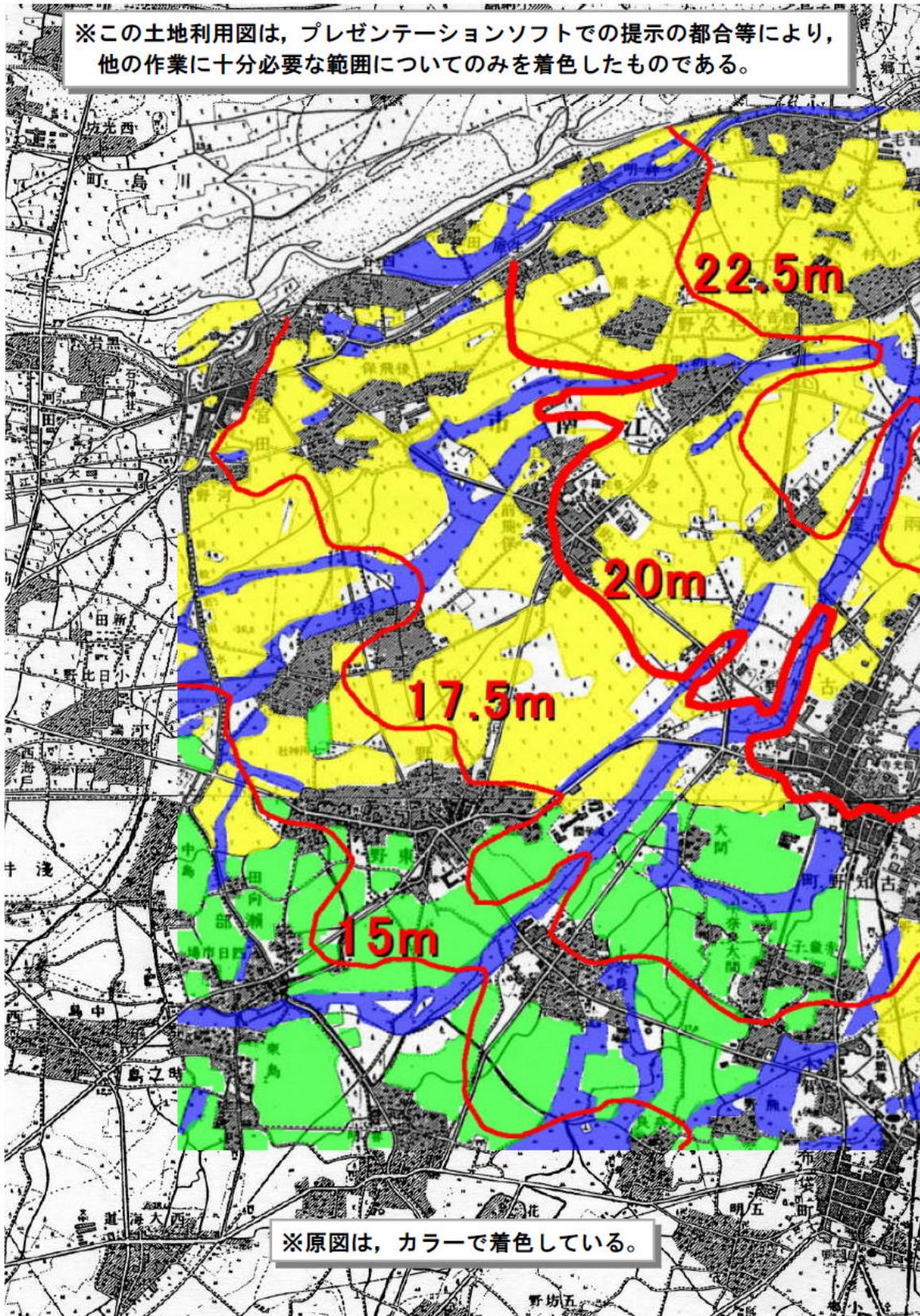
国土地理院発行 2万5千分の1地形図（岐阜・一宮） 1947年（昭和22年）

※ワークシート3の分類に従い、土地利用図を作成する。



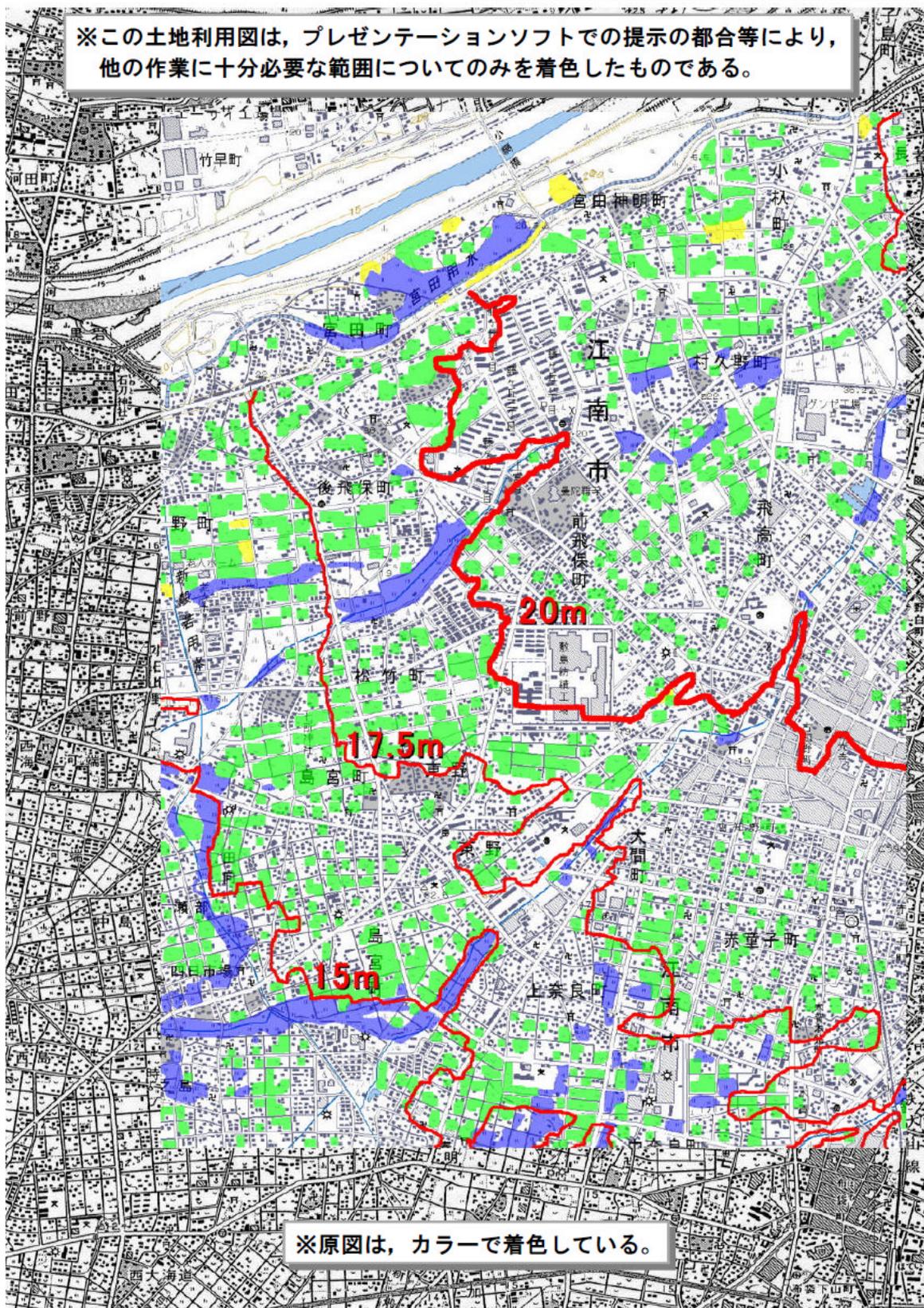
国土地理院発行 2万5千分の1地形図(岐阜・一宮・犬山・小牧) 1998~2002年(平成10~14年)

※ワークシート3の分類に従い、土地利用図を作成する。



国土地理院発行 2万5千分の1地形図 (岐阜・一宮) 1947年 (昭和22年)

※ワークシート3の分類に従い、土地利用図を作成する。



国土地理院発行 2万5千分の1地形図(岐阜・一宮・犬山・小牧) 1998～2002年(平成10～14年)

※ワークシート3の分類に従い、土地利用図を作成する。

資料10 ワークシート6

地理Aワークシート 6 (グループ活動用)

組 番 氏名 _____ グループ _____

Q 「謎の石垣」はなぜ存在するのだろうか？

自分の意見
グループ内の他者の意見
グループの意見

資料11 ワークシート7

地理Aワークシート 7 (グループ活動&まとめ用)

組 番 氏名 _____ グループ _____

1 学校周辺の地形からどのような自然災害が想定されるだろうか？

自分の意見
グループ内の他者の意見
グループの意見

2 身近な風景から防災やまちづくりを考える今回の学習を通して感じたこと、今後に生かしていきたいことなどをまとめる。

自分の意見
他者の意見

(資料10・11は、実際はA4サイズ)

資料12 ワークシート8

地理Aワークシート 8

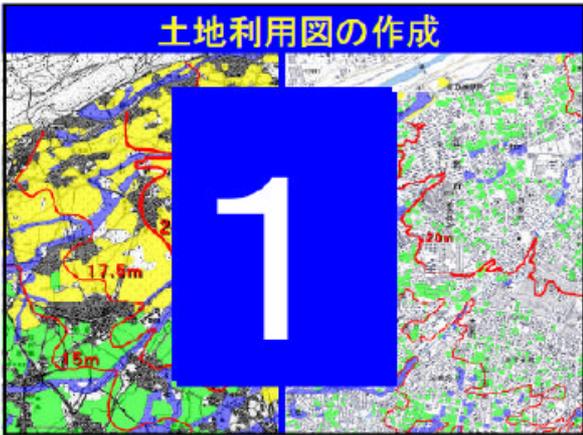
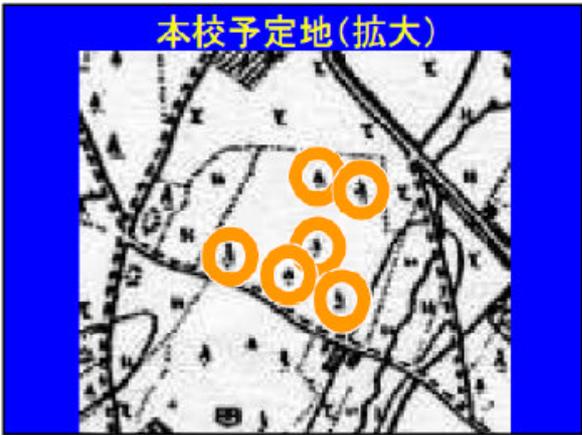
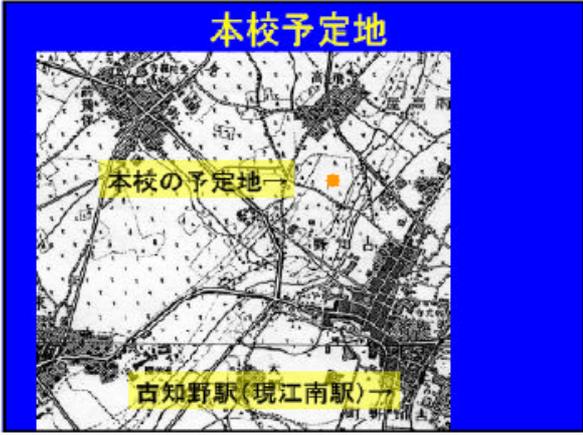
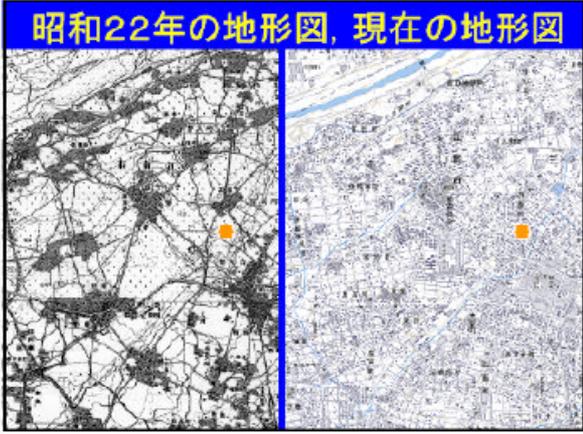
組 番 氏名 _____



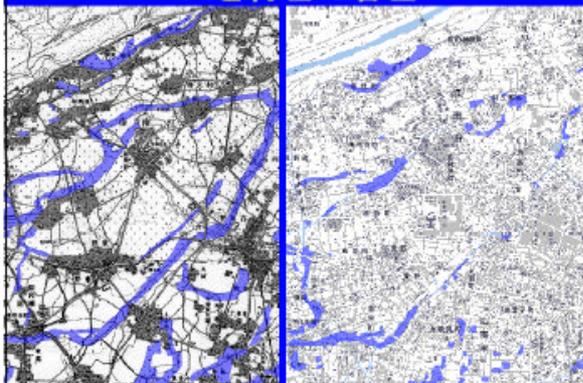
国土地理院発行2万5千分の1地形図(岐阜・一宮・犬山・小牧) 1998～2002年(平成10～14年)

※ワークシート4・5の作業結果を踏まえて、ハザードマップを作成する。

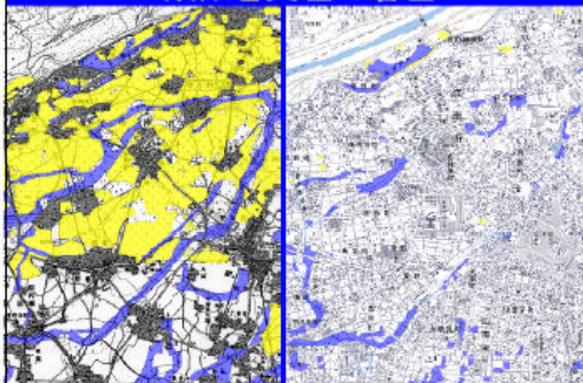
(資料12は、実際はA4サイズ)



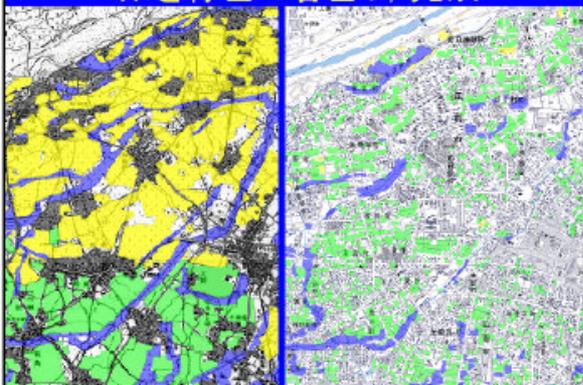
田を青色で着色



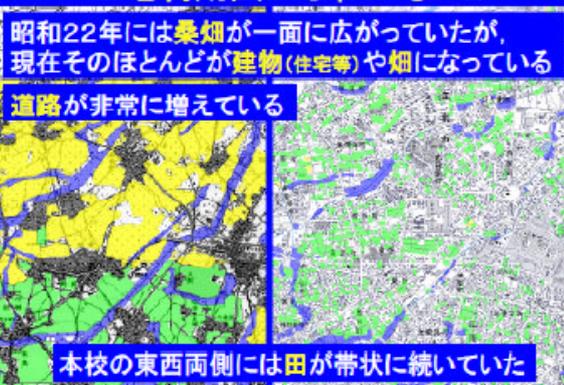
桑畑を黄色で着色



畑を緑色で着色し、完成



土地利用図からわかること



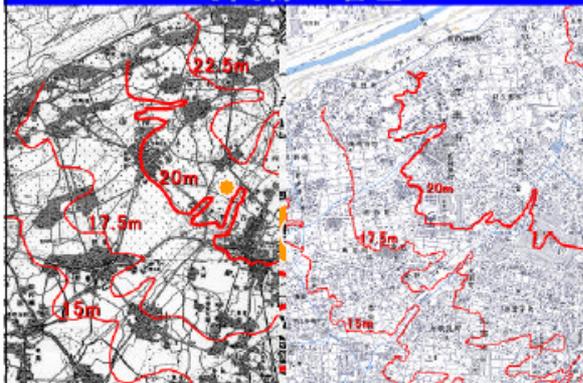
空中写真で見る土地利用の変化 昭和22(1947)年(米軍撮影)→平成12(2000)年



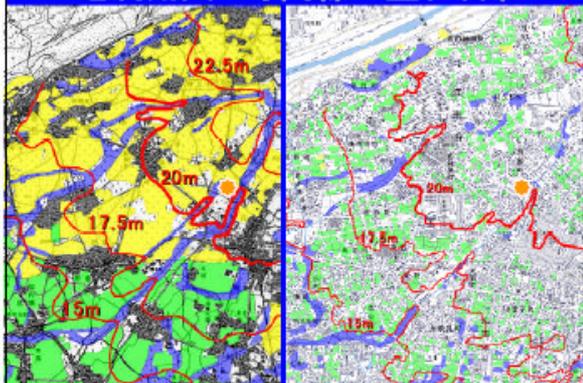
空中写真でわかる土地利用や地形 昭和22(1947)年(米軍撮影)を拡大



等高線の着色



土地利用図と等高線の重ね合わせ



等高線からわかること

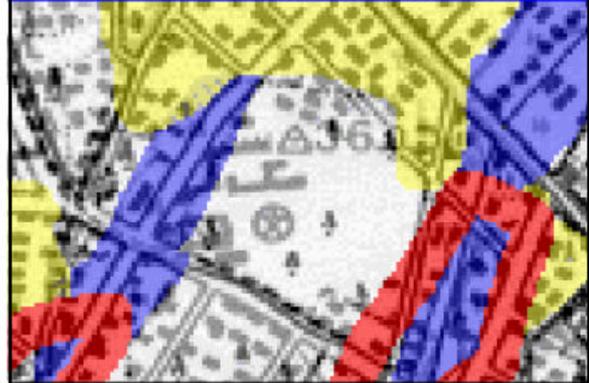
「本校の東西両側には谷が帯状に続いていた」のは...

現在の本校の東西両側に当たるところは、
周囲よりも標高(土地の高さ)が低くなっていたから
(一周囲から水が集まり、水が得やすいから)

一本校の東西両側は小さな谷の地形



新旧の土地利用図をよく見ると...



新旧の土地利用図をよく見ると...



石垣の正体



土地条件図を調べる



本校をはさむ谷



おまけ 通学路の選び方



桃源交差点は谷底、
周囲には土の地面がほとんどなくなった

→ 降雨時には水が一気に集まる

江南市の「浸水マップ」を見ると...



資料14 主題図作成に関する授業アンケートの回答

③ 授業の内容について、

1 印象に残ったこと、興味・関心を持ったことを挙げてください。

地形図に細かく色ぬりしたこと！
めんどろだったけど、いろいろな知識を得れてよかった。

③ 授業の内容について、

1 印象に残ったこと、興味・関心を持ったことを挙げてください。

色ぬりの作業が大変だった。

資料15 巡検に関する授業アンケートの回答

③ 授業の内容について、

1 印象に残ったこと、興味・関心を持ったことを挙げてください。

巡検とか映像を見たのが印象に残った。

③ 授業の内容について、

1 印象に残ったこと、興味・関心を持ったことを挙げてください。

・映像を見ながらの授業は、わかりやすかったです
・Let's じゃけん!!

③ 授業の内容について、

1 印象に残ったこと、興味・関心を持ったことを挙げてください。

スクリーンを使った授業がたのしかった!! じゃけんもたのしかった!!

③ 授業の内容について、

1 印象に残ったこと、興味・関心を持ったことを挙げてください。

巡検!! 初めての事を授業でうけて楽しかった。

③ 授業の内容について、

1 印象に残ったこと、興味・関心を持ったことを挙げてください。

LET'S 巡検の J

※上の「LET'S 巡検」とは、「バーチャル巡検」という活動に生徒が楽しんで積極的に参加し、実際に巡検しているかのような臨場感を醸し出すことを目的として、映像・画像の提示のはじめに、指導者による「LET'S」の掛け声に続けて生徒が右手の親指と人差し指で「J」（「巡検」をローマ字で表記した場合の頭文字）を作って高く掲げつつ「巡検」と大声で応えるよう、繰り返し行わせた動作を指している。

資料16 巡検への意欲を示す授業アンケートの回答

③ 授業の内容について、

1 印象に残ったこと、興味・関心を持ったことを挙げてください。

ゆいけんの授業が楽しかったです♡
一糸者に行きたかったです!!

資料17 身近な地域や風景への関心を示す授業アンケートの回答

③ 授業の内容について、

1 印象に残ったこと、興味・関心を持ったことを挙げてください。

Ａへ出て身近な土地を学べたこと。

③ 授業の内容について、

1 印象に残ったこと、興味・関心を持ったことを挙げてください。

ムービーを使っていて、わかりやすかった。
また、巡検現場から、どうしてこの地帯になったのかを説明したりするようになった。